

令和4年度4年生  
昨年度の授業改善プランについて

**国語**⇒漢字の読み書きは定着している。短文中で自分の意見や考えを書くことはできている。しかし、個人差が大きい。  
**社会**⇒調べ学習後のまとめや学習感想は、要点をまとめられる。しかし、資料の読み取り過程で必要な情報を選別する力が弱い。  
**算数**⇒おおむね計算力は定着している。思考面の説明は、言葉によるものが多い。多様な方法で表現できることに慣れていない。  
**理科**⇒課題解決の展開に慣れていない。しかし、結果を身近な事象と結び付けて考察することに慣れていない。

I 大田区学習効果測定の結果と概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≒：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	△			△			△			△		
観点別	△	△	△	△	△	△	△	△	△	≒	△	△
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1 教科全体

4教科全てが目標値を上回っている。また、理科以外は校内平均正答率も前年度より数値が上回っている。

2 観点別

4教科における観点別正答率は昨年度を上回るものが多い。しかし、理科の「思考・判断・表現」は昨年度の校内平均を少々下回る結果となった。

II 教科ごとの授業改善プラン

1 国語・社会・算数・理科

【国語】

必要な情報を読み取ること、それをもとに様子や傾向を捉える言葉を自分で考えて表現することに課題が残った。無答と誤答を含めると約70%に達している。言語による適切な表現に自信がない、適切な言葉が思い浮かべることが考えられる。視覚的に慣用句などの説明が分かるような本を通して語彙量を増やし、自分の思いや考えが伝えられるようにしていく。

【社会】

学習を通して得られた知識と身近な生活における事象が繋がっていないことが課題である。地図記号は身近な施設等を中心に、視聴動画を用いて関心をもたせること。知識については、実生活において「もしも」の状況を想定させながら、その施設や設備が必要な理由を考えられるような学習課題を取り入れるようにしていく。

【算数】

生活経験と算数との関連がつかめていない。具体的な生活場面で算数的な感覚をもつ機会が少ない。実際の生活の中で算数が活用される場面を学習課題として用いるようにしていく。

【理科】

学習を通して得られた知識と身近な生活における事象が繋がっていないことが課題である。単元の最後に学んだことを生かして、ものを作ることや身近なものがどの性質を活用しているか考えること等を取り入れていく。

	児童の実態	おおむね良好：○ 改善が必要：△	授業改善プラン
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい課題に意欲的に取り組み、友達と協力することや技能の習得にも積極的である。</li> </ul> </li> <li>●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏の工夫を考えたり、小グループや個人で演奏発表したりする活動に楽しんで取り組んでいる。</li> </ul> </li> <li>●主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全般において進んで取り組む児童が多い。</li> <li>・欠席やリモート参加の児童が多く、苦手意識や技能習得の度合いに差が付いてきている。</li> </ul> </li> </ul>	<p>○</p> <p>○</p> <p>△</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術習得のポイントを押さえて、児童が互いに学び合える活動を実践していく。</li> <li>・個別にフォローアップを図っていく。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の正しい扱い方を身に付けようとしていたり、新しい技法を知り、すすんで取り入れようとしていたりする。しかし、個人差はある。</li> </ul> </li> <li>●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のアイデアをもとに作品をつくらうとしている児童が多い。作品鑑賞では、語彙が少ないために、うまく表現できない児童も多い。</li> </ul> </li> <li>●主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作や鑑賞に対して、すすんで取り組む児童が多い。</li> </ul> </li> </ul>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の鑑賞については、鑑賞の観点を明確にしたり、使う語彙について指導したりして、実施する。</li> <li>・制作が困難な児童には、個別にフォローする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守り、友達と協力しながら運動に取り組むことができている。</li> <li>・過去の経験から、「できる・できない」を自分で判断してしまい、最初から諦めてしまい取り組むことに課題がある。特に器械運動領域に課題がある。</li> </ul> </li> <li>●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との練習や競争、グループでの活動などを通して、友達とかわかるよさを実感している。</li> <li>・得意・苦手、上手・下手などに関係なく、グループ間で意見を出し合い、解決しようとする姿勢が見られる。</li> </ul> </li> <li>●主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れやルールを明確に理解し、主体的に運動に取り組むことができている。</li> </ul> </li> </ul>	<p>○</p> <p>△</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な児童も挑戦できるように、個別に課題を設定し、解決できるような学習過程をたてていく。</li> <li>・毎授業ごとに振り返りカードに記入し、自己評価を行っていく。</li> </ul>